

日本介護支援専門員協会全国大会in北海道
第3分科会「ケアマネジャーの人材育成と事業所運営の工夫」

ワンランク上のケアマネジャーを目指して
～スキルアップ委員会の取り組み～



R-CARE

居宅介護支援事業所アール・ケア
ケアマネジャー 二宮 崇

事業所運営（委員会制）

①ケアマネスキルアップ委員会

②介護予防事業委員会

シニア世代を対象とした健康教室、介護相談会

③コミュニティー形成委員会

地域の社会資源とのネットワーク形成

④業務効率推進委員会

ケアマネ業務の効率化を検討（書式、タブレット等）



アール・ケア

挑戦はまっ先に。サービスはまっすぐに。

ケアマネジメントスキルアップにおける目標

自立支援型ケアマネジメントに向けたプランニングを実践する



アール・ケア

挑戦はまっ先に。サービスはまっすぐに。

目標達成における課題

- 「自立支援」の理解が不十分
(本人、家族、サービス事業所)
- 本人、家族の力を引き出せていない
- 「サービスありき」のプランになっている
- ケアプランの目標が抽象的で達成度が図りにくい
- 受け皿となるインフォーマルサービスの不足

※各ケアマネジャーにアンケートを実施



アール・ケア

挑戦はまっ先に。サービスはまっすぐに。

スキルアップ研修の概要

【方法】

- ・事業部内での研修、意見交換を実施(2か月に1回)
- ・各自1ケースを事前に提出し、ケアマネジメントの変化、さらには利用者、家族の生活の変化を確認

【研修内容】

- ・自立支援マネジメントに向けたアセスメント
- ・事例検討「インフォーマルサービスの活用」
- ・事例検討「サービス利用の必要性」(継続プラン)
- ・真の課題を探る(課題整理総括表)
- ・ケアプラン作成のポイント、自己プランの見直し



アール・ケア

挑戦はまっ先に。サービスはまっすぐに。

研修による効果

◆ケアマネジメントにおける意識の変化

- 本人、家族のプラン上の位置付け
- 目標に向けた本質的課題の把握
- 短期目標の具体的設定
- インフォーマルサービスの活用
- サービス卒業の意識付け
(本人、家族、サービス事業所)

※特に新規ケースについては有効



アール・ケア

挑戦はまっ先に。サービスはまっすぐに。

ケアマネジメントの見直しと新たな目標設定

◆事例紹介

Aさん 78歳 女性 要介護1 一人暮らし 外出の機会も少なく閉じこもりがち
「人との交流」をニーズとしてデイサービスを週2回利用

①再アセスメントの実施

生活歴、1日の生活リズムを改めて聞き取る

その人の強さ、その人が大切にしていることへの理解(地域とのつながり)

②本質的課題の再考

課題整理総括表によりニーズを導き出し、現プランのニーズと比較

「人との交流」→「地域の友人と交流を再開する」という課題を再確認

③デイサービスの必要性、インフォーマルサービスの活用を検討

デイサービスの代替の資源として地域で行っているサロン、百歳体操の活用
を検討

④ケアプランの見直し

新たなニーズに対して地域のサロンに通うことを提案

目標を「サロンに通い、地域の友人と交流を再開する」に変更

今後にむけた課題

ケアマネジャーが目指すべきライフプランを立て、それを基に、サービス事業所・各専門職を含めて対応策を考える必要がある。



アール・ケア

挑戦はまっ先に。サービスはまっすくに。

対応策

①目標達成をより効果的に行うためチームアプローチを実践

⇒サービス担当者会議、多職種連携についての研修を実施

②サービス卒業ケース、自立度または介護度改善ケースの増加

⇒要介護1、2の利用者の変化を集計し数値化（介護度、日常生活自立度、給付費）



まとめ

将来の社会保障制度にむけて、介護度や日常生活自立度の変化を数値化するという形をもって示していくこと、そして利用者が直接サービスを依頼するのではなく、なぜケアマネジメントの専門家を置いているのか、その役割と意義を考え、成果を出す取り組みを続けていきたいと考えております。



アール・ケア

挑戦はまっ先に。サービスはまっすぐに。